

特集：新型デミオ

17

## 新型デミオのデザイン Design of New DEMIO

中牟田 泰\*1  
Yasushi Nakamuta

### 要約

初代デミオの精神を受け継ぎ、新たなコンパクトカーの定義を作ること、そしてマツダブランドのDNAを最大限に表現することを目標に開発したのが新型デミオである。

デザイン開発においても、初代デミオの持つ機能性やパッケージの良さを継承し更に進化させながらも、新しいマツダブランドを表現したカスタマーの五感に訴えるエモーショナルなスタイリングを実現することを基本コンセプトとした。心地よい空間設計と高品質でクリーンなインテリアデザインの追求や、カスタマーの自己表現の喜びをサポートする、素材/カラーの新しい表現を追求し、幅広いカスタマーの共感を得られる次世代のコンパクトカーの新しい価値を提供することを目指した。

### Summary

New Demio has been developed for the purpose of inheriting the soul of the first Demio and clarifying the definition of a new compact car, and expressing DNA of the Mazda Motor brand to the maximum extent.

A basic concept in design development was to realize the emotional style appealing to five senses of the customer, which has expressed the new Mazda Motor brand while inheriting and evolving high functionality and good packaging of the first Demio. This new Demio offers a new value of a next-generation compact car which can obtain sympathy of a wide spectrum of customers because clean interior design with a pleasant space design and satisfactory high quality as well as a new expression of the material/color which supports joy of a customer's self-expression has been pursued.

## 1. はじめに

初代デミオは優れたユーティリティスペースを素直なデザインで表現することにより、経済性のみが問われていた既存のコンパクトカーに新たなベンチマークを創造した。

その新しい価値が競合各車の追従によりスタンダード化された今、新型デミオは更なるコンパクトカーの新しい定義を創り出すことを狙いとし、デザイン開発においても初代デミオの強みであったパッケージをさらに強化させ、次世代のコンパクトカーに求められているカスタマーの感性に訴える新たな価値観や機能性をデザインで表現することに挑戦した。

## 2. デザインの狙い

### 2.1 ブランドDNA表現

一目でマツダとわかるブランドDNAをスタイリングに表現するため、カスタマーの五感に訴える躍動感のあるエモーショナルなエクステリアデザインと上質でスタイリッシュなインテリアデザインを目指した。

### 2.2 カスタマーの感性に訴える新たなデザイン表現

幅広いカスタマーの多様な好みや個性に応えるため、女性をはじめとして多くのカーユーザの志向やライフスタイルをさまざまな視点から調査し、オーナーのセンスや生活の質を反映させた趣味性のサポートができるように、自己表現の喜びを与えるエクステリア及びインテリアのカラー

\*1 アドバンスデザインスタジオ  
Advance Design Studio

リングや素材、テイストなどを特化させた感性的なデザイン表現を狙った。

### 3. エクステリアデザイン

エクステリアデザインの狙いは、一目でマツダ車と分かるデザインDNAを持ち、シンプルにデザインされた機能の表現と、デミオの特徴的な塊感の表現を兼ね備えたエモーションでモダンなスタイリングを目指した (Fig.1)。



Fig.1 Final Rendering

#### 3.1 フロント・サイドビュー

シャープにスラントしたヘッドライトと5ポイントグリルによりマツダブランドのファミリーフェイスを表現し、グリルの両サイドからボンネット、そしてAピラーへと伸びる明快なキャララインによりスポーティで躍動感のあるフロントデザインとした。

サイドビューはデミオの優れた後部のユーティリティスペースを確保しながらもボンネットからショルダーラインにかけてダイナミックな動きを表現し、塊感のあるショルダー形状や力強いホイールアーチの張り出しにより、アスレチックで躍動感のあるスタイリングを実現した (Fig.2)。



Fig.2 Front Side View

#### 3.2 リヤビュー

リヤビューでは、機能性の良い低い位置から開くテールゲートとしながらもワイドトレッドと力強く張り出したリヤフェンダにより路面をしっかりとらえるダイナミックな構えを表現し、また水平基調のリヤコンピランプによりスポーティで個性的なリヤデザインとした (Fig.3)。



Fig.3 Rear View

#### 3.3 エアロダイナミクス

広く使いやすい、優れたパッケージングを実現しながら、高速走行時の燃費向上や静粛性などに貢献する空力特性を確保するため、断面形状に丸みを持たせたAピラー、ポデー前部コーナ部の張り、ボンネット先端とルーフ先端の位置関係の最適化、ルーフ後端の角度とリヤサイドの絞込みなどのデザイン処理によりCD=0.32というクラストップレベルの空力性能を実現した (Fig.4)。

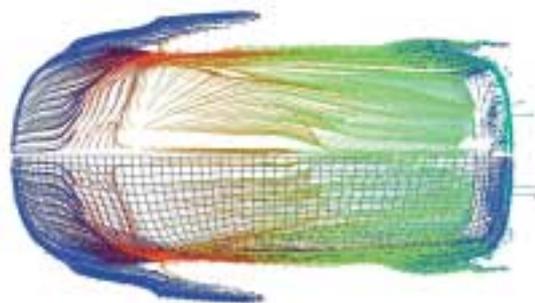


Fig.4 Aero Dynamics

#### 4. インテリアデザイン

インテリアデザインの狙いは、自分の部屋のように心地よく過ごせるクリーンでシンプルな空間構成と、乗る人をわくわくさせる個性的でスタイリッシュな、ひとクラス上の品質感を持ったデザインを目指した (Fig.5)。



Fig.5 Interior Theme Sketch

インストルメントパネルは心地よい開放感を与えるよう水平基調の低くフラットな造形とし、上面をダークブルーにすることにより明るいインテリアを引き締めるとともにその表面処理にディンプル加工を採用し、スポーティで精密なイメージを表現した (Fig.6)。

メータパネルは、大きなスピードメータとタコメータをシンプルなデザインで構成することにより、走行中の読み取りやすさを目指した。

ベンチレーショングリル、空調コントロールダイヤル式スイッチ、メータなどに丸型のデザインモチーフを使うことによりスポーティなマツダブランドのDNAを表現した。

センターパネルはモジュールオーディオの利点を生かしフラッシュサーフェイス化したモダンなホームオーディオをイメージさせる精緻な印象のメタル調のデザインとした (Fig.7)。洗練されたシンプルなパーツデザインに新しい素材、カラーそしてテクスチャを採用することによりハイセンスでひとクラス上の高い品質感を実現した。

また、デミオの優れた機能性である使い勝手の良いシートアレンジや荷室スペースも進化させ、フロントシートには角度調整式の大型のアームレストを設け、運転時の心地よさを追求した。荷室スペースのトリムデザインはタイヤハウスの張り出しを無くしシンプルでクリーンなデザインとした (Fig.8)。



Fig.6 Instrument Panel



Fig.7 Center Panel



Fig.8 Front Seat

## 5. カラーデザイン

カスタマーの生活へのこだわりが多様化する中、自分のライフスタイルやセンスに合わせた車選びができるよう、また自己表現の喜びを感じてもらうため、新型デミオでは従来型の上級、下級というグレード展開ではないターゲットユーザの趣味、志向に合わせた個性が明快な3つのグレード展開「3 cars from 1」コンセプトを導入した。

エクステリア、インテリアカラーデザイン開発においても、そのコンセプトに沿ったカスタマーの自己表現の喜びをサポートするカラーリングや素材、テクスチャを企画初期段階からプランナーとともに調査、分析し、3つのコンセプトに合わせた内外装のベストカラーコーディネーションを実現した。

### 5.1 Casual (カジュアル)

シンプルで自然体なライフスタイルを好むカスタマーをターゲットとした、使う楽しさを訴求するモデル。

ポデーカラーは若々しさと機能的をキーワードにスプラッシュグリーンをテーマカラーとした全7色を設定した。

インテリアは心地よい雰囲気のある明るいグレーを基調とし、シンプルな機能美を際立たせ、インパネやドアトリムにあしらったダークブルーのアクセントカラーによりシンプルでアクティブな個性を演出した (Fig.9)。



Fig.9 Casual

### 5.2 SPORT (スポーツ)

自由で行動的なライフスタイルを求めるカスタマーをターゲットとした、ドライビングの楽しさを訴求するモデル。

エクステリアは精悍なエアロパーツやディスチャージヘッドライト、15インチアルミホイールを専用装備としスポーティでアクティブなイメージを持たせ、ポデーカラーはスパイシーオレンジマイカをテーマカラーとした全6色を設定した。

インテリアはダークブルーとメタル調テクスチャを基本としたスポーティでクールなイメージを演出、よりスポーティなドライビングプレジャーを感じる空間とした。

シートはヤングカスタマーに流行のハイテクスーパーカーを研究し、エンボス加工の新素材ニットを開発しシートセンターのアクセントとした。

ドアトリムにはシルバーメタル調のスイッチベゼル、イ

ンナーハンドルや、メッシュ素材のダークブルーファブリックのサイドガーニッシュを使用することで、クールでモダンなテイストを際立たせた (Fig.10)。



Fig.10 SPORT

### 5.3 Cozy (コージー)

リラックスして心地よいライフスタイルを求める女性カスタマーをメインターゲットとした心地よくなごめるインテリアを訴求するモデル。

自分の部屋のようにくつろげる空間、そして自己のセンスを演出できるインテリアとするためファッションブルで明るいコーンページュのトリムカラーを基調とした。

インストルメントパネルは、上部がダークブルー、下部がコーンページュのツートンカラーで上質感を表現した。

シートはベロアとスエード調素材を組み合わせることで、1970年代のファッションにヒントを得たチェーンリンク模様をあしらひ、温かみとくつろぎ感を演出した。

ポデーカラーは上品で温かみのあるハニーイエローをテーマカラーとした8色を設定、さらにポデーカラーとカラーコーディネートしたミモザイエロー、ミントグリーン、ローズピンク3色のシートセンター布、ドアトリムガーニッシュ、カップホルダの設定により、個性的でスタイリッシュなイメージとし、自分の部屋の家具や雑貨を選択するような楽しさを実現した。

また、このコージーには光を透過する新素材を使用した大開口のホワイトキャンバストップを設定することにより、閉めた状態でもオープンカフェにいるような柔らかな光をうける心地よいインテリア空間を創ることができた (Fig.11)。



Fig.11 Cozy

## 6 . おわりに

以上が、新型デミオのデザイン開発についての概要である。

現在、このスモールカーセグメントには多種多様な個性を特化させたデザインの競合車が市場に投入されているが、新型デミオのデザインはお客様が見るたび、触るたび、そして走るたびに心地よく元気になれるものと確信している。

最後にデザイン開発に際しご協力頂いた関係各位にこの場をお借りして感謝申し上げます。

著 者



中牟田泰